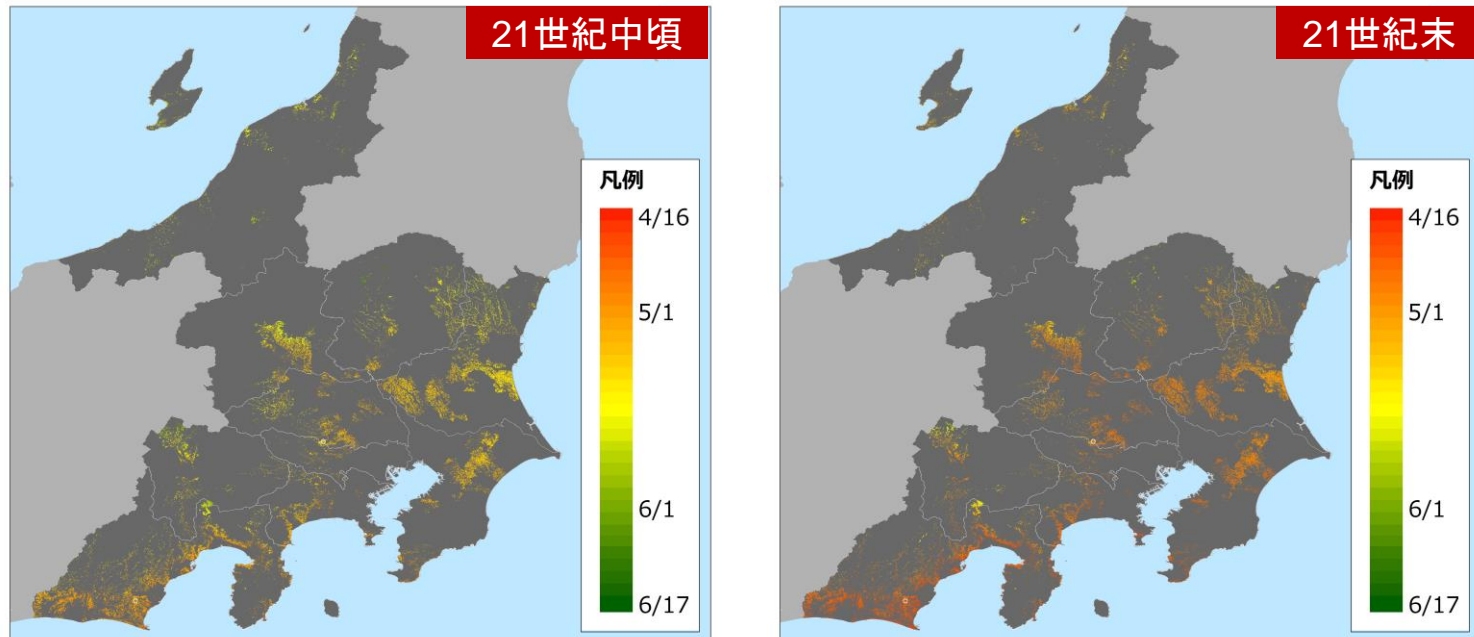


【成果概要】2-1 夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査

■ 成果

- 一番茶萌芽期・摘採期を推定する予測式を用いて、関東地域の予測を実施した。
- 関東地域の一番茶萌芽期・摘採期は、RCP8.5シナリオの場合、現在と比較して21世紀中頃では3～5日、21世紀末では2週間程度早まると予測された(MRI-CGCM3モデルの結果)。
- 静岡県及び関東地域では、一番茶萌芽期・摘採期が早まることにより、摘採までの作業計画の前倒しが必要となる可能性、摘採適期を逃し品質が低下する可能性、凍霜害の発生が早期化する可能性が示された。



注: 公開の統計情報等に基づき茶園の可能性のある位置を表示している。行政区域は「国土数値情報 行政区域データ」を使用

図. 一番茶摘採期の予測結果(関東地域)(MRI-CGCM3、RCP8.5)

■ 課題

- 作成した予測式は品種「やぶきた」を対象としているため、他の品種についても同様の影響予測が必要である。また、凍霜害リスクに関しては、冬季の温暖化が春季の茶芽の耐凍性に及ぼす影響についての研究も必要である。

2-1夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査

■ 適応オプションのまとめ

表. 適応オプションのまとめ

| 対応するリスク | 適応オプション | 想定される実施主体 | | | 評価結果 | | | | | | | |
|---------|-----------------------------|-----------|-----|----|---------------|--|-------|------|------|-----|-----------|------------|
| | | | | | 現状 | | 実現可能性 | | | | 効果 | |
| | | 行政 | 事業者 | 個人 | 普及状況 | 課題 | 人的側面 | 物的側面 | コスト面 | 情報面 | 効果発現までの時間 | 期待される効果の程度 |
| 摘採期の早期化 | 茶芽の生育ステージの調査・確認 | | ● | | 普及が進んでいる | ・気温上昇により茶の生育期間が早期化する可能性について周知が必要 ・どの程度効果があるのか予測が難しい | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 中期 | 低 |
| 摘採期の早期化 | 茶芽生育ステージの正確・客観的判断による作業計画の策定 | ● | ● | | 0% | ・研究段階の技術であるため、実用化が必要 ・実用化後の活用状況が未知 | △ | △ | △ | △ | 短期 | 高 |
| 摘採期の早期化 | 複数品種の組み合わせによる摘採期間の分散 | ● | ● | | 8.5% (静岡県) | ・実施されている「やぶきた」種以外の品種導入の更なる促進 ・気温上昇による摘採時期への影響について、他品種の研究が必要 | △ | △ | △ | △ | 長期 | 高 |
| 凍霜害の早期化 | 防霜対策開始日の早期化(送風法) | ● | ● | | 普及が進んでいない | ・いつ・どの程度、防霜対策を早めることが適切か、判断が難しい ・冬季の温暖化が一番茶芽の耐凍性に及ぼす影響についての研究が必要 | ◎ | ○ | ◎ | △ | 短期 | 高 |